

東邦ガス株式会社 | 案件概要

対象事例：東邦ガス株式会社 トランジション・ファイナンス

■ 企業概要

業種	ガス・電気
所在地	日本
事業	中部地区を中心とした都市ガスの製造・供給・販売、LPG・その他エネルギー事業、電気事業、その他の事業を行う。

基本指針四要素への対応

要素1	- カーボンニュートラル戦略：「東邦ガスグループ2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を策定し、ガス・水素・電気ですステナブルな社会の実現と中部地区の発展に貢献することを目指す。サプライチェーン等を含めた公正な移行を念頭に今後さらに検討する。 - ガバナンス：気候変動対策を含む環境問題への対応を重要課題とし、取締役会が執行状況を監督。グループ環境委員会を設置し、活動の方針・目標・各種施策についての審議・検討・進捗管理を行い、各本部にも環境推進会議を設置。
要素2	- 各種国際基準や社会課題・自社の現状分析を行い、GRIスタンダードが示す項目をベースにマテリアリティ要素を整理。特定した6つのマテリアリティの1つにカーボンニュートラルの推進を含む。 - また、資金使途は排出量の約99%を占めるScope3の削減に向けた取組としてガス自体の脱炭素化等に向けた技術開発を含む。
要素3	「東邦ガスグループ2050年カーボンニュートラルへの挑戦」にて示されたカーボンニュートラル達成までの経路は経済産業省が策定したガス分野のロードマップ及び電力分野のロードマップと整合。
要素4	2022年度～2025年度までの投融資2300億円のうち、キャッシュフローを創出するコア事業と、中長期的な成長をけん引する戦略事業に1：1の割合で投資する計画。 - 調達した資金は主に戦略事業の投資に充当される予定。

■ ボンド概要

発行体	東邦ガス株式会社
ストラクチャリングエージェント	大和証券株式会社
評価機関	DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
調達予定額	100億円
調達予定日	2022年11月

資金使途候補

※橙字：本件の資金使途候補

適格プロジェクト	プロジェクト概要
お客さま先の低・脱炭素化	お客さま先の石炭・石油から都市ガスへの燃料転換支援に係る支出・投資
ガスへの燃料転換	ガスパイプラインの延伸又は維持に係る設備投資
ガス供給網の整備	コージェネ、高効率ガス機器導入、地域冷暖房に係る設備投資
ガスに関連した省エネルギー	
カーボンリサイクル	CO ₂ の分離・回収・利用・貯留に係る研究開発又は設備投資
CCUS	
ガス自体の脱炭素化	
メタネーション	メタネーション技術の実用化に係る研究開発又は設備投資
カーボンニュートラルLNG	カーボンニュートラルLNGの調達・供給に係る支出・投資
バイオガス（再エネ）	バイオガス導入に係る研究開発又は設備投資
モビリティ用途	
水素ステーション	水素ステーション整備に係る設備投資
さらなる用途拡大	
水素燃焼機器等	水素燃焼、都市ガスとの混焼等に係る研究開発
分散型エネルギーシステム	水素や再エネ等、各種技術を組み合わせたスマートタウン構築に係る設備投資
サプライチェーン構築	
水素製造、CCUS	天然ガス改質等による水素製造やカーボンリサイクルに係る研究開発又は設備投資
ローカル水素ネットワーク	ローカルネットワークによる水素パイプライン供給に係る研究開発又は設備投資
お客さま先の低・脱炭素化	
分散型エネルギーシステム、再生可能エネルギー、クリーンな運輸	太陽光発電・蓄電池・電気自動車等を含む多様な分散型エネルギーソースの普及促進及びそれらのデジタル技術を用いた統合・制御に係る研究開発又は設備投資
電源の脱炭素化	
再生可能エネルギー	太陽光・バイオマス・風力（洋上風力を含む）・小水力発電等の再生可能エネルギー電源の開発に係る設備投資又は投融資
	地域新電力への投融資

東邦ガス株式会社 | 案件概要

トランジション戦略とガバナンス（要素1）

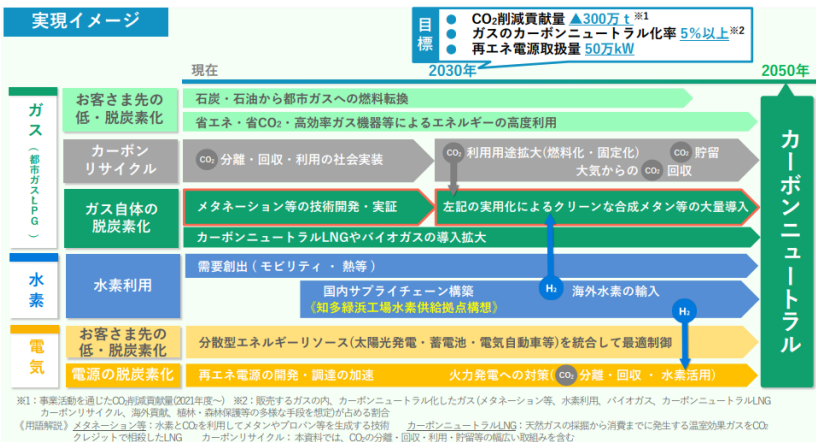
カーボンニュートラル関連目標

2030年

- CO₂削減貢献量（2020年度比）：▲約300万t（※）
※Scope3排出削減量▲50万tを含む
- ガスのカーボンニュートラル化率：5%以上
- 再エネ電源取り扱い量：50万kW

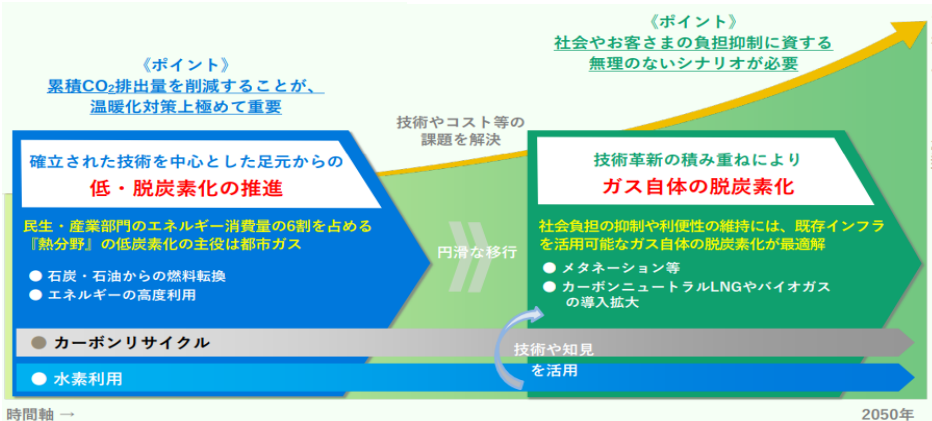
2050年

カーボン
ニュートラル



トランジションに向けた戦略

- 確立された技術を用いた低・脱炭素化を着実に進め、将来的にガス自体の脱炭素化を実現することでカーボンニュートラルを達成する。



ガバナンス

- 気候変動対策への対応：経営上の重要課題と位置づけ、環境行動指針や環境行動ガイドラインを制定
- 気候変動に関する重要事項：経営会議を経て、取締役会に報告され、取締役会は執行状況を監督
- トランジション戦略のガバナンス：東邦ガスと主要関係会社で構成する「グループ環境委員会」を設置。活動の方針・目標・各種施策の審議・検討・進捗を管理
- 各事業本部ごとに「環境推進会議」を設置し、「グループ環境委員会」と併せて進捗及び計画を確認



ポイント

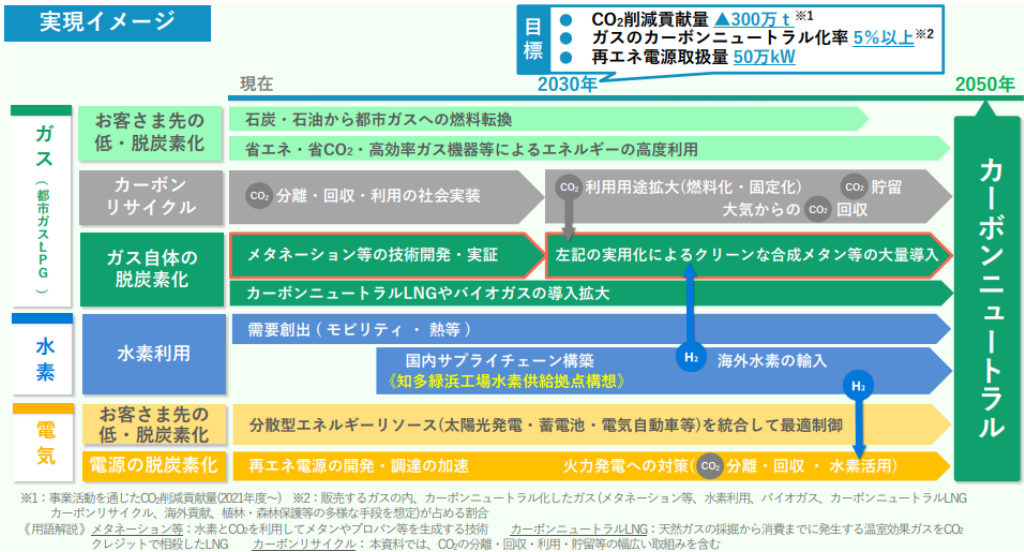
- 石炭・石油等から天然ガスへの燃料転換支援によりガス需要が増加し、東邦ガスグループでのCO₂排出量(特に、Scope3)は2030年にむけて増加する見込み。
- 削減貢献※への取組に加えて、東邦ガスグループのGHG排出の約99%を占めるScope3排出量の削減推進に向けて、既存技術を用いつつ、最終的にはガス自体の脱炭素化を目指す。
- 具体的には「高効率なガス設備の導入」「ガスのカーボンニュートラル化」により、Scope3排出量削減量▲50万tを見込む。

※削減貢献への主な取り組み：Scope3排出量削減、燃料転換支援、再エネ電源取扱→削減貢献量：▲約300万t

東邦ガス株式会社 | 案件概要

科学的根拠のある目標と経路（要素3）

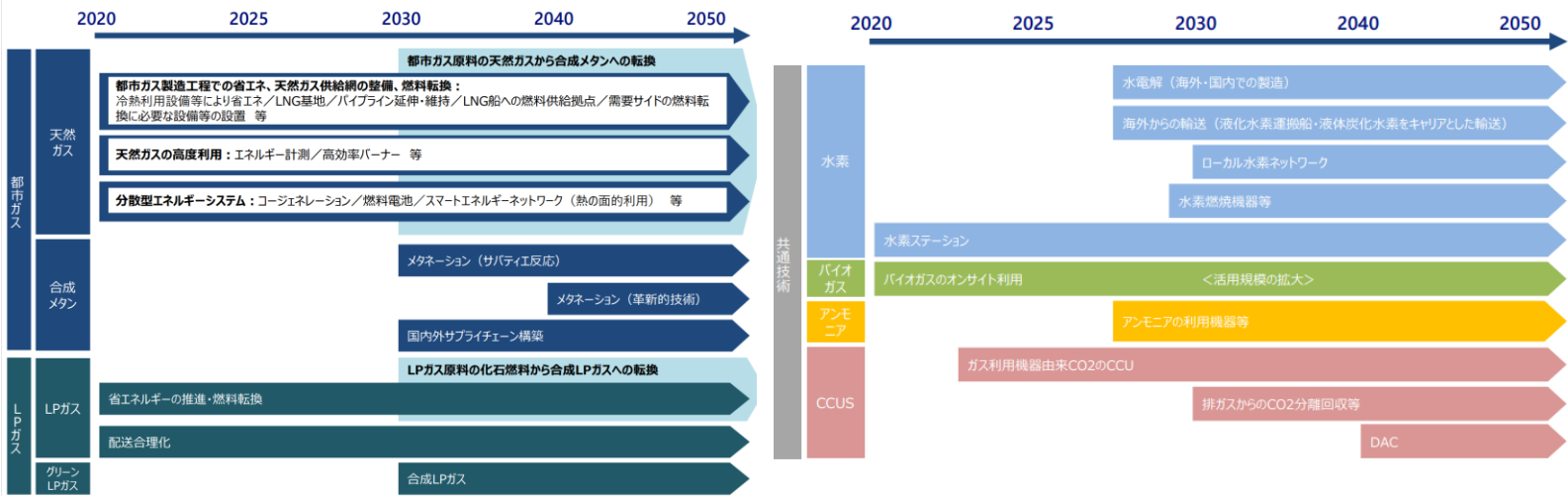
東邦ガス
カーボンニュートラルへの挑戦



ガス分野ロードマップと整合する取組

- 天然ガスに関する取組
- LPガスに関する取組（省エネルギーの推進・燃料転換）
- CCUSに関する取組
- 合成メタンに関する取組
- バイオガスに関する取組
- 水素に関する取組
- （経産省電力分野ロードマップと整合）

経産省
ガス分野における技術ロードマップ



補助金審査委員会 | 結果概要

対象事例：東邦ガス株式会社 トランジション・ファイナンス

審査結果：承認

クライメート・イノベーション・ファイナンス推進事業の補助金事例として承認

主なご意見

トランジション戦略

- ・ トランジションとしての要件を十分に満たしている。
- ・ 水素に関する取組は自治体や事業会社等とも連携しており、優れた取組といえる。
- ・ 水素製造について、現実性を踏まえて初期にグレー水素を活用することは妥当だが、比較的早期にブルー水素やグリーン水素に移行することを期待する。
- ・ Scope1・2の排出量についても例えば2030年の絶対排出量ベースでの中間目標が示されるとより良いのではないかと。

他の要素・その他

- ・ トランジションは実現蓋然性に不確実性が伴うことが多いため、技術の見通しと共に、バックアッププランや、リスクヘッジ策があるとより良いのではないかと。
- ・ 資金の投入により得られる効果が明確になると望ましい。

本資料は、トランジション・ファイナンスによる我が国の2050年カーボンニュートラルとパリ協定の実現への寄与に焦点を当てて行うものであり、トランジション・ファイナンスの金融商品としてのリスクについては、一切評価の対象としていません。本事業のモデル事例であっても、通常のファイナンスと同様、信用リスク及びその他のリスク（債券の場合は価格変動リスク、流動性リスク等）は存在することに留意が必要です。